

第4回安曇野市環境審議会 会議概要

1	会議名	第4回安曇野市環境審議会
2	日時	平成31年(2019年)1月22日(火)午後2時00分から午後3時55分まで
3	会場	本庁舎 大会議室 西
4	出席者	環境審議会 浅川行雄 会長、植松晃岳 副会長、佐々木俊之 委員 樋口嘉一 委員、藤澤昇 委員、横田耕太郎 委員、口村孝 委員 二條久男 委員、酒井文雄 委員、北野聡 委員、江澤二郎 委員 飯沼千賀子 委員、井上和行 委員、小池晃 委員
5	市側出席者	安曇野市 市民生活部 宮澤部長、環境課 久保田課長 環境保全担当 百瀬係長、高野主査、幅主査 環境政策係 藤森係長、土屋主査、平沢主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1名
8	会議概要作成年月日	平成31年(2019年)2月4日

協 議 事 項 等

【進行表】

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 報告事項
  - (1) 空家等の適正管理及び有効活用について
  - (2) 水環境基本計画にかかわる施策について
  - (3) 環境行動計画 重点取り組み 点検評価ワーキンググループの編成について
4. その他
5. 閉会

【議事】

報告事項(1) 空家等の適正管理及び有効活用について

<環境課環境保全担当から説明>

<質疑>

(委員) 空家調査結果の件数に、明科明賀地区のような集団離村した箇所は入っているか。

(環境課) 明賀地区のみ入っていない。その他は既に人のいない集落も調査・集計した。

(委員) 空家データベースに建物の大きさや敷地面積は含まれているか。また、可能なら資産価値も定量化できるようにしてほしい。

(環境課) 含む予定で調査している。資産価値の評価については検討させていただく。

<意見>

(委員) 所有者は遠方にいることが多く、多大な労力が必要。気軽に連絡でき、きめ細かいサービスを受けられる業者を紹介することが大事。帰省中に市職、不動産・庭木関係の業者等と一度に相談できる場があるとよい。先進的な取り組みを行う市に相談してはどうか。また、所有者には買い手や利活用、周辺の都市計画や資産価値などの情報が少ないので、市が中心に

なって気軽に相談できる体制をつくってほしい。

(委員) 区の関係で空家に携わっている。古民家に若者が移り住んだ例、比較的新しい住宅を取り壊し7区画の分譲住宅にした例がある。管理された空家であっても、個人で不動産業者や借り手を探すのは困難。アンケートを実施するならば、相談会への出席可否を照会し、空き家バンクの利用や管理を担う業者等を紹介する機会を設けるとよい。また、予防・啓発が不可欠。独居世帯等を対象にした相続に関する勉強会等の開催も検討願いたい。

(委員) 民間による空家管理ビジネスも参考にしながら、そうした所で流通させていく方法も検討願いたい。

(委員) 有名な人が穂高地区に移住するとの噂をきく。PR大使などの目玉キャラクターになってもらうなど、移住・定住と関連づけると手助けになるかもしれない。

(委員) 法整備して空家に認定された建物に課税し、その収入を管理に充てることを前提とすれば、課税されるくらいなら流通又は処分しようとするようになるのではないか。

#### 報告事項(2) 水環境基本計画にかかわる施策について

<環境課環境保全担当から説明>

<質疑>

(委員) 資料3の39ページに地下水利用状況が示されているが、揚水量に伴う金額は個々にどのくらいか。大きく差があるようであれば今後変動していくのではないかと思うが、今後10年くらいでどのように変化すると予測されているか。

(環境課) 地下水の汲み上げについて金額は定まっておらず、揚水にお金はかからない。経年変化や採取量の予測は難しいが、10年前をピークに現在は減少傾向です。

(委員) 汲み上げるときは、“ただ”ということか。出ていくときには、お金がついていきますと、そういうことですか。

(環境課) 揚水自体にお金はかからない。汲み上げ施設の整備や稼働には費用がかかると思う。水道は使った分だけお金がかかるが、地下水は汲み上げてもお金はかからない。

(委員) 付加価値がついて、金額がどうなっているのかということだったのですが、それぞれに差異があると安い方にしだいにシフトするのではないかと思い、そういう考え方もとれないかと思って質問した。10年後に比率がかなり変わっていくのかな、ということですか。

(環境課) 揚水量がこれからどうなるかの予測は難しい。ミネラルウォーターを扱う事業者が減ったため10年前と比べ減っているが、他の事業者がくれば増えることになる。

(委員) パワーポイントの資料について、視力の弱い者も見やすく、わかりやすい表示にしていきたい。

(委員) 水位低下の原因を調査し、まとめられた資料はありますか。

(環境課) 降水量等の自然要因もあるが、減反による水田涵養の減少が原因として大きいと結論づけています。他の先進地でも一番の原因は水田が減ったこととしています。また、揚水量が増えたことも要因の一つです。例えば、北陸地方での道路凍結防止用の散水、ミネラルウォーター等の飲料製造業における冷却水としての利用などです。

(委員) マスタープランの概要版を見ると、地下水を主な課題としているように感じるが、「地下水」保全計画」等ではなく、「水」環境基本計画」とした理由はなにか。河川水等、そ

の他の水に関してもプランニングがあるのか。

(環境課) 水循環基本法においては、水循環の一つとして地下水も位置付けられている。国の動向として、大きな水の循環を一括りとして計画・施策を作っていくという流れがあり、また、本市の計画も国認定の流域水循環計画の一つとなっている。このため、地下水だけでなく今後のことも含めて「水」環境基本計画」としている。

(委員) この名称を用いるならば、河川水等、その他の水についても計画に取り込むことを検討していただきたい。

(会長) 策定に携わった者として発言させていただくと、委員のご要望に基づく考え方も計画には含まれていると考える。

(委員) 南安曇農業高等学校は建物が傾くほど地盤沈下したが、市内において揚水が原因で近年問題になっている事項はありますか。

(環境課) わさび田の作付けに影響がでている。また、家庭用井戸で時期によっては取水できなくなったとのお話を聞くことがある。

(委員) 市外からの水の流入は、アルプスからと考えてよいのでしょうか。

(環境課) 山の方は地盤が固く涵養しにくい地層。実際は山麓線から平地側で涵養していると考えられる。

(委員) 三郷地域の農家さんと話す機会があったが、地下水に関しては穂高地域のことという認識で、市全体の問題だと理解してもらうのに苦労した。放置するとどうなる、対策を施すとどうなるということを明らかにし、市全体の問題という意識で取り組む必要がある。また、審議会に諮る事項が資料2スライド1の①～③であることに違和感。水利権の問題もあるので、環境課だけでなく、水道課、農政課などと協力し、危機意識をもって取り組んでもらいたい。

(環境課) 水環境に関しては様々なテーマや施策があり、本日は環境課が今一番困っていることとして、①～③についてご意見を伺った。水資源対策協議会には農林部、上下水道部のほか、土地改良区の皆様などが名を連ねており、他の事項についてはそちらでお話させていただく。

(委員) 水質については、どういった調査をされているか。また、調査結果をスライドで紹介してもらいたい。

(環境課) 市内28か所でモニタリング調査を実施。一部地域において硝酸態窒素の数値が高い箇所があるが、いずれの調査でも環境基準を満たしている。

(委員) 地下水位の低下の原因が田んぼの減少ならば、市民にはどうすることもできず、“自分ごと”としてとらえにくい。市の“売り”を水にして名水価値の向上や観光振興等につなげることと地下水位の問題を結びつけて考えることは難しく、審議会の場で議論できる課題ではない気がする。どのようにすり合わせ、どう落としどころを見つけていけばよいのか。

(環境課) 一番の課題は地下水涵養施策。麦後や転作田涵養事業があるが、水利権の関係で課題がある。賦存量の増加は難しいとしても、現状を維持するために何をすればよいか、研究者から意見をもらい検討中であり、まだ審議会での議題とする状況にないため、今回は①～③の市民意識の向上等についてご意見を伺った。

(委員) 安曇野市は田園都市。農林業従事者が水を潤している。都会の人は田や山の景観を求めて観光に来るので、農業体験で有休農耕地を耕してもらい水田を広げていけば、いずれは気に入ったから空家に住みたいという人がでてくるかもしれない。

<意見>

(副会長) 短時間に3つの課題を諮問することに疑問。また、小・中学生向けの資料にしては難しい。“どうして水が大切なのか→水がなくなったらどうなるか→だから水を守る”というように、具体性をもった分かりやすい資料作成をパワーポイントも含めて考え直し、改めた上で再度諮問してもらわないと結論を出すのは難しい。

(委員) リンゴやミカンを用いた図は分かりやすい。農林水産省の食事バランスガイドのように垂直に展開すれば更に分かりやすくなり、副会長のおっしゃる“大切”とい話から導入できると思うので工夫をお願いしたい。

(委員) 学校はターゲットとして相応しいと思う。普及啓発の第一ステップは“知ってもらう”こと、第二ステップは“考えてもらう”こと、第三ステップは“行動してもらう”こと。市民が現在どのステップにいるか把握することが必要。まずは“知ってもらう”ことをいかに実施していくかが大切。工夫をお願いしたい。

(委員) アクアピアで毎年9月にイベントを実施しており、南安曇農業高等学校の生徒も参加している。そうしたイベントや県と協力することが、市民意識の醸成につながると思う。

(委員) 烏川溪谷緑地において、市内ほぼすべての小学5年生に対し川の生物や水について学ぶ機会を提供している。一般も参加しやすい環境づくりやイベント数を増やすと市民意識の醸成につながると思う。

(会長) あまりよいアイディアではないが、1立方メートル節水すれば金銭的・環境的にどれだけメリットがあるか明示できるとよい。

(委員) 水道水源がすべて地下水というのは全国でもまれ。ミネラルウォーターを法律の縛りにより最低限の塩素滅菌をして飲んでいるようなものだが、皆すごさを感じていない。海水や汚れた水を、プラントを用いて飲料水に変えるには莫大な費用がかかるので、市の滅菌費用と比較すれば水の価値が分かるのではないか。わさび田だけではアピールが足りないと思う。

(委員) 工場・事業所の排水が地下浸透という例が多々あり、大丈夫かと心配している。名水価値の向上という点で、地下水の検査を厳密に行ってはどうか。地下浸透について何らかの規制を設けるべき。

(副会長) シートゥサミットという言葉があるが、例えばサケの遡上のように、海から北アルプスまでを全部つなげたイベント等の開催を観光に結びつけられたらと思う。

(環境課) アルプス地域の地下水保全の協議会が発足しており、今後広域的なイベントの実施を提言していきたい。

(会長) 資料2のスライド26、第三紀層という用語は、2010年に国際的な取り決めで使用なくなり、現在は、古第三紀と新第三紀を用いるので、修正をお願いする。

報告事項(3) 環境行動計画 重点取り組み 点検評価ワーキンググループの編成について

<環境課環境政策係から説明>

<質疑>・特になし

(午後3時55分 議事終了 閉会)

【今後の予定】

・3月14日(木) 第5回環境審議会